



Marianna Angels

2016.April

マリアンナエンジェルス通信 Vol.14

発行 聖マリアンナ医科大学ナースサポートセンター

〒216-8511 神奈川県川崎市宮前区管生 2-16-1

TEL 044-977-8111 (代)

http://www.marianna-u.ac.jp/hospital/

年 2 回発行



笑顔と涙の成長記録

入職した当時、ドキドキ緊張していた新人ナースたち。1年間、患者さんとの関わりや、先輩ナースのサポートのなか、一步一步自分の看護ができるよう頑張ってきた成長過程をレポートしました。笑顔あり涙ありの奮闘記です。

M.A通信 編集部
Special Report!

プリセプターとの関わりのなかで成長

大学病院 代田 美咲さん 消化器一般外科



初めて患者さんと接して、学生の頃とは違い「看護師さん」と呼ばれることに対しての責任感と誇りを感じました。患者さんにかける言葉が心に響き、自分の対応が磨かれていきました。純粋に患者さんを楽にしたいという気持ちも、コミュニケーションを通して感じました。

技術面ではさまざまな研修や講習により、ストマ管理方法や緊急時・夜間せん妄等の対応方法を学び、実際の医療現場で活かすことができました。

先輩方からは基本的なことから、そして効率性や疾患に対しても詳しく指導していただき、勤務が合わない中でもメモでやり取りして密に対応してくれました。厳しい時は

厳しく、勤務外では笑いながら楽しく話してくれて、頼りになる話しやすいプリセプターさんでした。

1年間で振り返って、自分の知識・技術力不足から、患者さんに迷惑をかけてしまった時や、業務ばかりに追われて患者さんをしっかり見るができなかった時は辛かった。でも、患者さんから嬉しそうに「良くなったよ!」と報告された時は、ほっとします。まだまだ一人前にはなれませんが、スタッフ同士で協力すること、自分のできることを自ら探せるようになりました。

高橋 未里さん 勤務歴5年
消化器一般外科

後輩が成長したなと感じる点は、気持ちに余裕ができ、他のスタッフへの声かけや、手伝いができるようになったこと、疑問点は自分で調べ、それでもわからないことは相談してくるようになったことなどです。私自身はプリセプターとして、一つ一つ根拠を用いて説明し、計画的に行動することを指導していますが、まずは後輩の考えや意見を聞き、その上でアドバイスし、いつでも声をかけやすい雰囲気を作るように努めています。

先輩からひとこと

患者さんの嬉し涙に感動

西部病院 大森 早稀さん 心臓血管センター



患者さんと初めて接し、「ねえ ねえ看護師さん」と言われ、"もう学生ではなく看護師なのだ"、"患者さんの命を預かっているのだ"という責任感を感じました。患者さんが今抱えている不安、思いを話してくださったことで、コミュニケーションの重要性を知り、不安軽減のために常に笑顔で接しようと心がけています。

研修や講習会では特に採血の実技研修が印象的でした。急変対応では、「まず自分は何をすれば良いのか」を学ぶことができました。また、研修を通して他部署、他職種との同期との仲を深めることができました。

1年間で振り返ると先輩・同期に支えられているという思いが強くなり、特にチューターさんには日々の勤務においての指導のほか、自己学習を見ていただき、学びを深めることができています。辛かったことは、目の前で患者さんの死に直面した時です。先輩から「一人で抱え込むことが一番よくない。みんなで共有しよう」と声をかけていただき心が軽くなりました。嬉しかったことは、手術後の辛い時期を乗り越えた患者さんが涙を流して退院日決定の報告を伝えに来てくれたことです。嬉し涙は素敵だな、と心が温まりました。

先輩からひとこと

西尾 恵さん 勤務歴4年
心臓血管センター

1年間の経験で、看護師としての責任感が生まれ、患者さんに積極的に関心をもち看護ができるようになりました。後輩の育成に当たっては、コミュニケーションを大切にしています。体調や精神面の不安を表出しやすいよう、話かけやすい雰囲気づくりをし、こちらから声をかけるようにしています。また、スタッフへ学習支援内容の周知を行うなど、周りのスタッフからも気にかけてもらえるよう声をかけていきました。

同期・先輩看護師と日々の学びを深める

東横病院 鈴木 理子さん ICU/CCU



入職時、患者さんから「看護師さん」と呼ばれ、看護師になれたという喜びが大きかった。しかし反面、何もできない自分も患者さんや家族から見たら、先輩たちと同じ看護師の一人なのだと思うと不安もありました。技術研修では、基本的な技術や知識を中心に多重課題について学び、また同期と一緒に学びや考えたことを共有することができ、さらに理解を深めることができました。

プリセプターの先輩は、小さなことでも相談ののってくれ、一緒に考え、親身になってくれました。また病棟の先輩看護師方が、ISBAR を用いた日々の振り返りを一緒に行うことで、アセスメントのアドバイスやそれぞれの知識を与えてくれて、

その日その日で学びを深められるような関わりをしていただきました。

この1年で自分の未熟さから、できないことや思い通りにならないことが辛かったけれど、患者さんからの「ありがとう」の言葉や笑顔が嬉しく、リハビリで車イスに乗れたり、立てたりできた時はとても感動しました。呼吸器を含め2床を自立して受け持ちし多重課題がこなせるようになったこと、夜勤の独り立ちができたことが、自分自身で一番成長できたことだと思います。

竹内 祐輔さん 勤務歴4年
ICU・CCU/ER

今日必要な看護は何かを挙げられるようになったことと、患者さんに笑顔で関われるようになったことが一番の成長だと思っています。とかく、新人看護師に対して減点法で評価してしまいがちですが、やりがいや看護観を育てるためにも、「前はできていなかったけど、ここができるようになったね」と、できていることを認め、加点法で評価し、本人に返すことを心がけています。

先輩からひとこと

自己学習ノートでふりかえり

多摩病院 深澤 里佳さん 循環器内科・腎臓高血圧内科



初めて患者さんと接した時、看護師として医療に携われることへの喜びとともに、仕事に対する不安や責任感を強く抱きました。緊張した面持ちで接した際に、患者さんから「緊張感が伝わってくるよ」というお言葉をいただき、看護師の感じている不安も患者さんに伝播してしまうのだと痛感させられました。技術研修は小グループ制なので、指導者の方から各個人に合わせた的確なアドバイスをいただき、自身の技術向上に繋がりました。研修内容は基礎的な看護技術講習にとどまらず、院外の研修施設での多重課題・急変時対応の実践、グループワークにおいては、看護観や自身の悩み・現状を語り合うことができ、充実した時間でした。

4月から3カ月間、新人が勤務ごとに『振り返りシート』を記載しました。その内容に対し指導の先輩方から、細かなアドバイスや励ましのメッセージなどを頂戴し、心の大きな支えとなり、先輩方との距離が縮まりました。悔しいと感じたのは急変時など初めて遭遇することに自分が全く動けなかったことです。『次に同じ場面に遭遇したら動けるようにになりたい』との思いから、『あの時の対応方法は？自分に何ができたか?』と必ず振り返りを行い、自己学習ノートを作成し先輩方に確認していただき、自身の向上に努めました。それを活かす対応ができた時、自己の成長を感じられました。

先輩からひとこと

深水 梨絵さん 勤務歴7年
循環器内科・腎臓高血圧内科

憧れの看護師となって、胸に期待を抱いて入職したものの、自分一人で行えることが少なく、辛く悔しい時期もあったと思います。徐々に自立できることが増え、笑顔が見られるようになり、気づけば周りを気遣うことができる頼もしいスタッフになっていました。新人さんが早く慣れるように、コミュニケーションを大切に、一人ひとりの傾向を把握し、個性を伸ばせるよう、それぞれに合ったアドバイスをするようにしています。

私の病院自慢

新年会でベストスタッフ賞を授与

大学病院では毎年、看護部主催の新年会で、ベストスタッフ賞の授与式を行っています。平成17年から開始し、11年目となりました。ベストスタッフ賞は、セクション内でお互いに「良いこと探し」を行い、承認や称賛することを通して職務満足度の向上を図ることを目的としています。同時にケア・キュア・コアの各大賞やベストマネージャー賞も授与されます。細やかな看護実践や管理が認められ、スタッフの笑顔がはじける嬉しい催しです。

看護部 藤原 多鶴子



大学病院

第14回神奈川メディカルラリー開催

2016年2月に西部病院で第14回神奈川メディカルラリーを開催しました。メディカルラリーとは、医師・看護師・救急救命士でチームを作り、列車事故での多数傷病者へのトリアージやショック状態の患者への院内外の連携など、いくつものシナリオにチャレンジすることで知識・技術・チームワークの向上を目指す競技です。当院からも救命救急センターの医師と看護師がチームを作って出場し、参加14チーム中、見事4位入賞を果たしています。皆さんも、このシナリオ前の緊張感とシナリオ後の爽快感を味わってみませんか?

救命救急センター 大澤 翔



西部

職員表彰式にて看護部門はじめ、計5名が表彰

2016年3月15日に毎年恒例の職員表彰式が盛大に執り行われました。看護部門では3西産婦人科病棟(助産師)津田いつくさんが、新生児蘇生法を指導したことを讃えられ「新生児蘇生を広めたで賞」をいただきました。

この他、医療安全部門1名、医師2名、中央監視1名の計5名が表彰されました。「今日の受賞を糧に次年度も頑張ります」と受賞者たちの頼もしい言葉が聞かれました。

4 東 野崎 美穂



多摩

中堅層を引っ張る

熱い・篤い・厚い! 3名の男性看護師

当院には、4年目・5年目・9年目の3名の男性看護師が勤務しています。それぞれの部署の中堅層として、活躍しています。看護師として仕事に熱い想いをもち、人情に篤く、職場の潤滑剤として厚い信頼を得ています。

専門性に特化した病院の看護師としてスキルアップを目指すとともに、患者さんからも、スタッフからも話しかけやすい雰囲気を保ちたいという一致した熱意をもって頑張っています。



立花 努(4年目)
SCU

竹内 祐輔(5年目)
ICU/CCU

渡井 智行(9年目)
消化器・循環器病棟

東横

「術前外来」開始しました 大学病院

平成 27 年 10 月より休日入院促進と術前オリエンテーションの充実などを目的として、月曜日手術予定の日曜日入院患者を対象に「術前外来」を開始しました。術前外来では手術予定日 2 週間前に手術室看護師、麻酔科医師、薬剤師、栄養士によるチームで、患者さんからの情報収集と、入院・手術に関する説明や指導を行っています。

まず、麻酔科医師による診察と麻酔に関する説明が行われ、手術室看護師が手術のオリエンテーションと麻酔に関する説明を理解されたかどうかを再確認します。また、患者さんの情報の電子カルテ入力やアセスメントも行います。次いで、薬剤師による内服状況の確認や休薬の説明、栄養士からの栄養状態の評価、食物アレルギーの確認などが行われます。従来の術前オリエンテーションを一歩進め、チームで関わることによって患者さんご家族の持つ入院や手術全般に対する疑問を解消し、不安を軽減できるように努めています。現在は診療科限定での術前外来ですが、将来的には全科での対応が可能かを検討して患者さんに、より安全で安心できる医療を提供していきたいと考えています。

手術室 村 弘子 師長



患者さんを笑顔にするために… 大学病院

「勤務犬 ミカ」



計画を立てて進めます。ミカは毎週月・水曜日(8:30～16:00)に勤務。1日に3～4件の依頼を受け各病棟に行き、寝たきりの患者さんに寄り添って離床を促すお手伝い、リハビリ室や手術室までの同行などしています。

毎日ベッドの上で苦痛に耐えていた患者のAさんは、ミカに会うと「痛みが和らぐ」と言い、30回目の訪問をする頃にはベッドを起こせるようになり、表情も穏やかになりました。その後、車椅子で散歩するAさんにミカが寄り添った時「何カ月ぶりかな? 外に出たの…生きてよかった」と。また入退院と手術を繰り返す4歳のB君は、手術室に入る時は大暴れしていましたが、「ミカを手術室に連れて行ってね」とリードを持たせると、得意気な表情で手術室に進んでいきました。ミカは患者さんの心を理解し、向上心を高めてくれるようです。佐野師長より一言「これからもミカとスタッフ一同、患者さんの笑顔に出会うため、やる気スイッチと寄り添う医療を提供していきます!」



ベッドの上で患者さんに寄り添うミカ



ミカと共に手術室に向かう患者さん

マンガでGO!

頼もしき♡プリセプター!



新人ナースを教育している先輩プリセプターは、新人が早く慣れるように、コミュニケーションを大切に、それぞれにあったアドバイスをして指導しています。勤務後にはプライベートで仲良く過ごすことも。新人にとってとても心強い存在なのです。

恵まれた環境の中、妊婦さんの診察に責任感とやりがい 西部病院

西部病院では、平成 27 年 10 月に助産師外来を開設しました。助産師が妊婦さんの診察を行い、問診や内診・超音波などを実施しています。これは、助産師が正常妊婦の管理を全面的に行うための第一歩であり、病院全体の多くの部署の協力と、看護部の後押しで、看護職の専門性が認められた結果だと思っています。助産師外来で診察をするのはとても緊張しますが、それ以上のやりがいも感じています。さらに今後は、母性病棟と産婦人科外来を一元化し、より継続看護がしやすい環境が整う予定です。入職後一人前の助産師として助産師外来を実施するまでには、たくさんの経験と学習が必要になりますが、西部病院にはその学習を支援する体制が充実しています。自分の目指す看護を理解してもらえるのは、とても幸せな環境だと思います。当院には、他にもフットケア外来など看護職が行う外来があります。みなさんも、西部病院で自分の大切にしている看護について、一緒に考えてみませんか?

周産期センター 母性部門 濱田 愛



助産師外来開設!



看護実践報告会

「レジリエンスナース」となるために 東横病院

3月4日(金)に、看護実践報告会を行いました。今年度の発表演題は7演題あり、病棟だけでなく、外来や手術室など様々な部署での1年間の成果発表が行われました。内容としては、事例報告や事故防止に向けた取り組み、新入職者への教育、禁煙外来での卒煙に向けた指導など、それぞれが1年間取り組んだ成果が報告されました。さらに、今回は、看護部の目標にも掲げている「レジリエンス」について、主任会や副師長会で学習した内容が報告され、主任会からの「レジリエンスとは何か」という報告の後に、副師長会から「実際にレジリエンスを活用していくために」という報告が行われ、レジリエンスナースとなるために、どんなことを心掛けていくが具体的な報告がありました。アンケート結果では、「他部署の活動がよく分かった」「イメージしやすかった」「ぜひレジリエンスを取り入れたい」などの意見もあり、明日からの看護に生かされる報告会となりました。

教育担当 木村 保美



看護部活動報告会

1年間の集大成! 多摩病院

看護部活動報告会が3月4日に開催されました。多摩病院は開院 10 周年を迎え、この活動報告会もいつの間にか一年の成果を発表し合う恒例の行事となり、大盛況の中での開催となりました。口演発表は家族看護や認知症看護などの症例報告があり、自分たちの行った看護を振り返ることで今後の看護の課題や看護研究への視野を広げることができました。職員満足度向上に向けた取り組みについての報告では意見交換も活発に行われ、職員満足度を向上させることが真の患者満足度の向上に繋がる事を参加者全員で実感できるともいい機会になりました。ポスター発表は各部署のチーム活動の報告や看護ケアの工夫の紹介があり、後輩の発表を先輩が温かく見守る様子がとても印象に残っています。活動の成果を通し、部署の垣根を越えて共に学び合う有意義な時間となりました。これからも、患者さん中心の愛ある医療の実践に向け、みんなで学び合うことを大切にしていきたいと思いました。

上村 美穂



掲示板

インターンシップ

看護学生(H29年・H30年3月卒業見込みの看護学生・助産学生)を対象に将来のキャリアに関連した就業体験(インターンシップ)を行っております。お申込み及び詳細はホームページをご参照ください。

- 費用: 無料・交通費は片道分支給いたします(ただし、一人1回のみです)
 - 宿泊: 看護師寮の入寮体験が可能です(前泊・無料です)
 - 施設: 希望病院に複数参加可能です(各病院1回です)
 - 見学: インターンシップ前日13時～15時に他1病院の見学が可能です
- 尚、最終学年の方は、当日の採用試験も可能です(個別に相談に応じます)
- 詳細はホームページを参照ください
<http://www.marianna-u.ac.jp/nsc/index.html>

2017採用試験

聖マリアンナ医科大学 10:00～12:00					
実施月	実施日	実施月	実施日	実施月	実施日
4月	23(土)・30(土)	8月	13(土)・27(土)	12月	10(土)
5月	7(土)・14(土) 21(土)・28(土)	9月	10(土)・24(土)	1月	28(土)
6月	4(土)・18(土) 11(土)・25(土)	10月	22(土)	2月	25(土)
7月	2(土)・9(土)・16(土) 23(土)・30(土)	11月	12(土)	3月	11(土)
現地会場・各会場 13:00～16:00					
札幌	6月 4日(土)	高知		9月24日(土)	
弘前	10月 1日(土)	福岡	6月18日(土)・7月23日(土)		
八戸	9月10日(土)	宮崎	10月 1日(土)		
盛岡	9月24日(土)	鹿児島	10月15日(土)		
仙台	7月9日(土)・10月22日(土)	沖縄	9月 3日(土)		
東京	10月29日(土)				

詳しくは人事課(聖マリアンナ医科大学)044-977-9316(人事課直通)まで。

入職内定の皆さまに朗報!

看護師国家試験対策、2つのe-learningが活用できます!

ナースングスキル

看護技術を映像で確認・習得!

ナースングパスポート

国試過去問を徹底的に学習・指導!

利用方法 PCやタブレット、スマートフォンなどから、アクセスし、別途通知のあったユーザ名等でログインして利用できます。



携帯ホームページをご参照ください。 <http://mobile.marianna-u.ac.jp>

